



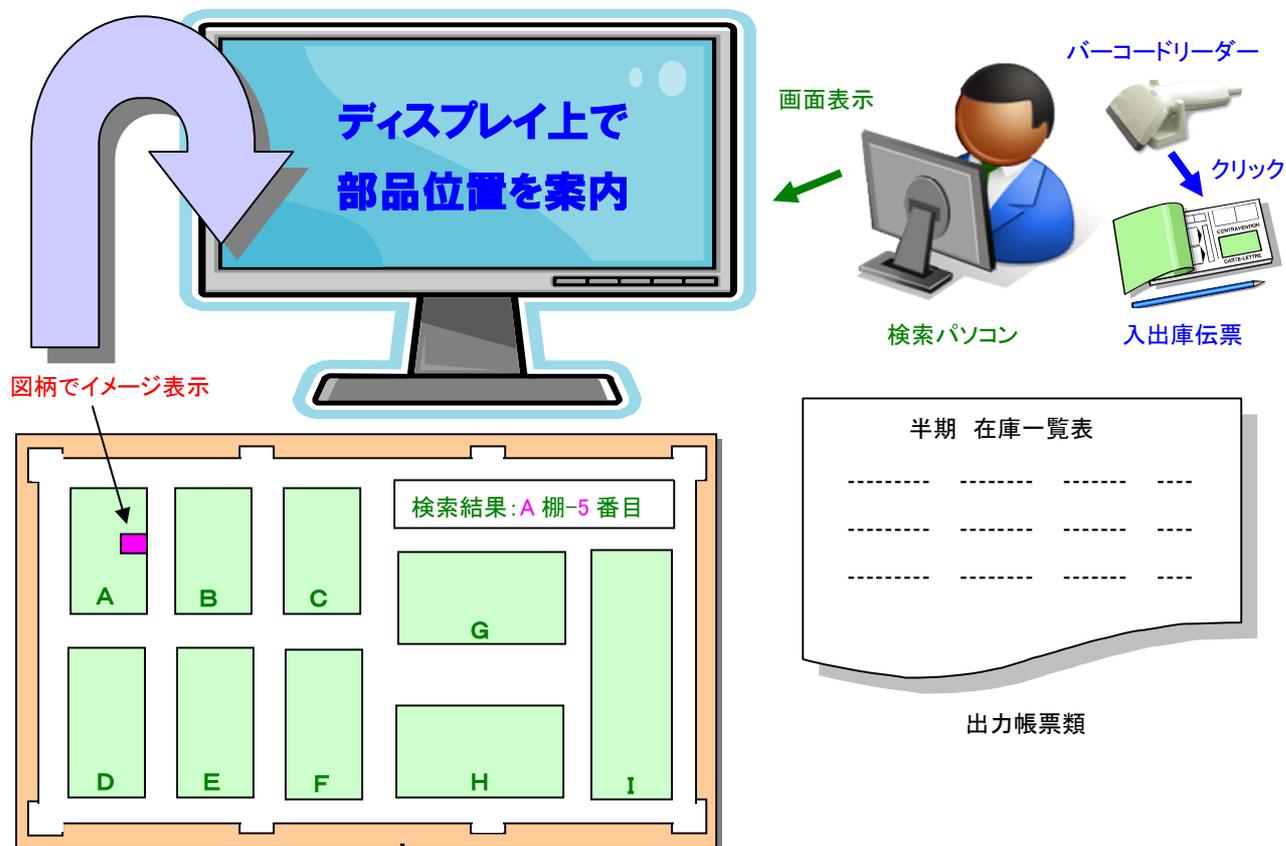
入在庫ナビシステムのご提案

【倉庫の入在庫業務の効率を高める】

入在庫票に記載された品名バーコードを、専用のバーコードリーダーでワンクリックするだけで倉庫内における当該部品の所在の棚をPCディスプレイに一発表示して「A 棚 B 列の5番目」などのコメントで部品のある場所が正確に把握でき、在庫の有無や製品情報がすぐに判別できること。また、担当者名や部品数量や入在庫時刻のログ等を記録してデータベース化することにより、実地棚卸との照合もできるなど入在庫業務が簡単かつ素早く達成できます。尚、必要な出力帳票や集計などご要望に合わせて開発いたします。

【クリックするだけの簡単操作】

バーコードリーダーの操作は、帳票に印刷されているバーコードにかざしてボタンをクリックするだけ(ピッと音がします)の簡単操作なので、誰にでも操作でき作業の負担になりません。また、目視による品番の読み間違いなどのヒューマンエラーを無くし、迅速に作業を完了することが可能となります。



【必要なハード・ソフト】

OS は Windows XP のデスクトップPC、またはノートPC 1台(既存品にて可)

Microsoft Access 2003 リレーショナルデータベース、CCD バーコードリーダー 1 個

【現状分析】

① 現状の問題点

入出庫帳票によるバーコード印刷とコード、品名を元にして、倉庫内の特定の部品を探すことに相応の時間を要することは否めません。

これは、倉庫の棚の決められた位置にある製品を探し出すという人的な作業であり、現場に精通していても10000点もの部品のコード及び品名記号から目的の製品を取り出すのはかなり困難であること。

特に、品名表記が記号番号なので、現物の材質や形状から品名を連想することは難しくイメージが掴みにくいいため、どうしても棚の記号番号から探すことになります。

② 問題点改善の必要性

似通ったコードや部品名の読み間違いや、計量ミスなどがあつた場合、再送付などに時間が経過し、出荷先の工場での製造ラインが停止するなどの支障が起き、大きなクレームの原因となりやすいこと。

【ソリューション・問題解決】

① システム導入による解決策

入出庫にかかわる業務のためにパソコンを使用し、専用のバーコードリーダーで部品棚検索および在庫確認を行うこと。

部品のコード、品名、属性などは現在稼動中の出荷システムの部品マスターファイルと同一のものにすることで互換性を持たせる。

② 解決した場合のメリット

入出庫作業の負荷が軽くなる。



作業効率格段にUP

③ システムを導入した場合のメリットとデメリット

<メリット>

◎ 迅速な棚検索。作業効率アップ。

部品棚を探す手間が省けます。

◎ パソコンの操作が苦手な方でも大丈夫。

たとえ Word、Excel や Access の使い方をマスターしなくても、どなたでも使えます。

業務ソフトを使いやすくするために、画面上のボタンをクリックするだけで VBA のプログラムや SQL をコーディングして開発してあるからです。

◎ システム運用のための専属担当者は不在で可。

通常の運用方法はソフトを起動後、画面上で該当する処理選択ボタンをクリックして、バーコードリーダーをクリックするだけです。



数量の入力は電卓と同じ配列のテンキーが主ですから、アルファベット文字キーやファンク

シオンキーを使うことなく、画面上でマウスでクリックすることでPCが処理を実行します。

◎データのバックアップ機能

PC本体内の記憶領域以外に、外付けのハードディスクや、PCの外部媒体(フラッシュメモリ、DVD-RAM、光ディスクMO等々)へ保管できます。

◎元本のプログラムCD-Rが付属しています。

万が一の場合のシステムの再インストールにも支障がありません。



プログラムCD添付

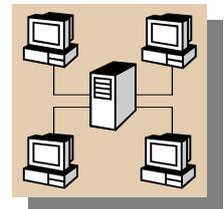
◎専用サーバー不要。

部品数20000件までのデータであれば、特にサーバーは不要であり、PCのスタンドアロン(単体)で対応できるリレーショナルデータベースMS-Accessが利用できます。

現在、ご利用のパソコンがWindows XPなら最適な環境です。

◎最新のOS Windows Vistaにも対応。

Access2007があれば、グレードアップ可能。(別途、設定要す)



オンライン処理にも対応

◎IT資源の有効活用

将来的にデータ件数が増えた場合は、アップサイジングすることで、オンラインや無線ルーターを利用して、サーバークライアント型のSQLデータベースへの移行にも対応。

<デメリット>

◎停電などの不測な事態

デスクトップPCの場合、別途、安定化電源機器を必要とします。(ただし、ノートパソコンの場合は停電時にもバッテリーで駆動するため、心配ありません。)

【費用対収益】

① 投資効率(価格、ランニングコストなど)

物を探すことに費やす時間は、結構大きいものです。

直接、目には見えませんが、年間の人件費として換算するとかなりの無駄な経費が発生していることとなります。



メリットはコスト削減

たとえば・・・

200人規模の企業で、毎日5人が書類を1枚5分間探すとしますと、毎日25分間、1週間5日で125分、1ヶ月を20日出勤として算出すると500分、1年では6000分=100時間=12.5日にもなります。

時給の平均を2,000円として、年間2,000円×100時間=200,000円の無駄な経費が発生していることとなります。

書類以外でも同様で、倉庫内の棚の部品を探すのも人的作業ですから、同様に時間を必要とします。現場担当者の方も苦勞が絶えません。

探す品目数が多くなると、これらに要する時間は正比例して**経費・労力が無駄に費やされること**になります。

毎日、5人が部品をそれぞれ20品目扱うとして、1品目探すのに5分かかるところを2分に短縮できたら、3分の節約になり、単純に上記の例と比較しても、

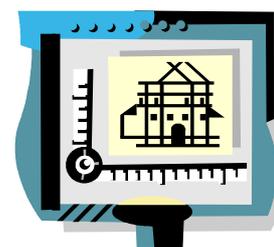
例) **年間 200,000 円 × 20 × 3/5=2,400,000 円**の**経費が削減**できることになります。

【システム開発費用】

これらに対して、ナビシステム開発に要する費用は、開発工程の工数をあらかじめ算出し、単位時間当りの人件費として計上しています。

IT業界の場合（標準的な開発費用）

システムエンジニア	5000円/時間(システム設計・詳細設計)
プログラマー	3000円/時間(VB 言語プログラムコーディング)
オペレーター	1500円/時間(データ入力・操作運用)



システム開発

完結したデータベースシステムとして構築するためには、経験値で(3人/月)程度が目安です。3人のプロジェクトチームで納期1ヶ月を要します。1人では3ヶ月を要します。

開発に際しては、クライアント企業様の現在の業務内容のしくみや、データに汎用性・互換性を持たせるため、部品を管理している在来システムのレコード形式を参照するなど、基本設計に要する段取りが必要なため、『入在庫ナビシステム』の開発は工数に合わせて概算のお見積りをさせていただきます。

尚、お見積り費用は、打ち合わせを含めて初期費用をいただき、お仕事のご依頼を受けた時点で開発代金に算入し、お見積り代金はいただきません。

キャンセルされた場合は戻りませんので予めご了承ください。

ソフトウェアは無形固定資産として計上するより、銀行リースなどで経費算入処理できます。

【バージョンアップについて】

◎将来に備えてのグレードアップ対応。

パソコンの環境が変わったり、OS(基本ソフト)の進歩によってナビシステムをバージョンアップするなどの場合も、ご要望に合わせて適宜、変更修正をさせていただきます。取り扱い品目の追加、フォームなど画面のレイアウト変更、印刷帳票などの再構築サポートもいたします。

※尚、ご提案に合わせて、現場に即したシステムを構築致しますので、よろしくご検討下さい。

以 上